

坂さんぽ ⑦

「しでの坂」

番神一丁目の港入口バス停付近から下宿橋を経て、番神二丁目の番神堂入口バス停付近まで登る坂は、現在は県道黒部柏崎線が主要路線であり、バス通りとなっているが、その少し北側の道（市道柏崎5-103号線）付近の坂道を「しでの坂」という。この坂は昔、北国街道の一部であった。

現在のバス通りは昭和7年に新設されたものであり、これを報道した新聞は、「死出の坂道も坦々たる大道に」との見出しで、傾斜が20分の1（水平方向に20進むと垂直方向に5上がる、度数では2.9度）になったと記されている。また、下宿橋のたもとにある2階建の家は、下宿橋付近の道路の土盛りが原因で、玄関を1階から2階に移したとのことである。これらのことから、坂の傾斜が緩やかになったことが分かる。

下宿橋に接する南東側には、貞心尼剃髪の地となった閻王寺跡がある。

坂命名の由来は、平安時代初期に征夷大將軍となった坂上田村麻呂が、東の輪を拠点とする蝦夷軍と戦った際に、蝦夷軍が高台から弓矢で攻撃したため犠牲が多く、坂上田村麻呂がこの坂で軍勢を四方（四つ手）に分けて、夜間に総攻撃を行って勝利したことにより、後年四つ手が四手（しで）に、また戦死者が多かったので死出の坂になったと伝えられている。なお、前述の新聞記事には「日出の坂」という名称もあるが、由来は明らかでない。

しでの坂については、源義経が弁慶を連れて奥州に下る際にここを通り、母の巴御前から事前に険しい坂と聞かされていたのに、たやすい（いささもない）道だったことから、付近の橋（現存しない）が「いささ橋」と呼ばれるようになったとの伝説もある。（ソフィアだより179号に掲載）

現在のしでの坂は、登り始めが急で、軽自動車でもすれ違えない所がある位の狭い道だが、番神地区の生活道路として落ち着いた雰囲気の中にある。

●参考にした資料

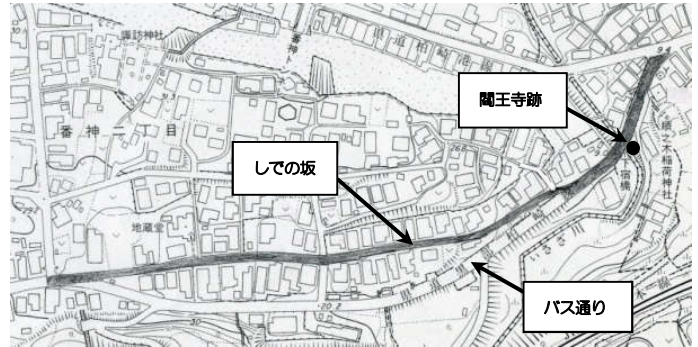
『子供とつづるふるさと大洲』 柏崎市立大洲小学校発行（244 Kオオ）

『北国街道Ⅱ』 新潟県教育委員会編（224 Nキヨ5）

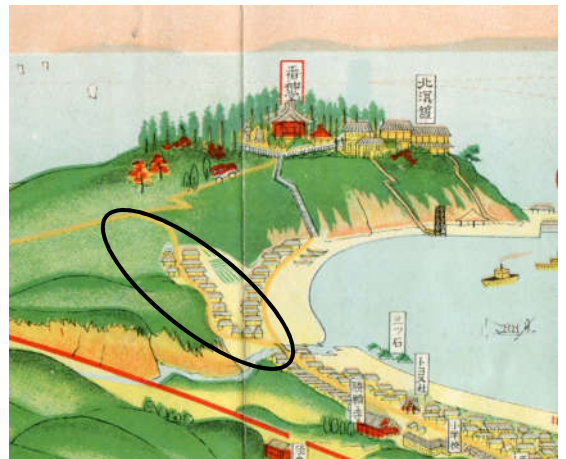
『柏崎伝説集』 柏崎市教育委員会編（388 Kキヨ）

『柏崎郷土史話』 宮川嫩葉著（224 ミヤ）

柏崎日報 昭和6年9月4日号、昭和7年10月15日号、昭和7年11月7日号、昭和49年1月14日号、昭和49年2月25日号



柏崎市街図其8（平成5年 1/2500）



柏崎名勝図絵御殿山案内（昭和3年）
丸田みが「しでの坂」



下宿橋付近の「しでの坂」(右)とバス通り(左)の分岐点